令和７年度事業報告書

公益財団法人　北九州活性化協議会

目 次

（ 概況 ） ・・・・・・・・・・Ｐ１

（ 事業報告 ）

Ⅰ 公益目的事業 １

北九州市地域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と
活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与する事業

１ “もったいない”を未来に引き継ぐ事業 ・・・・・・・・・・Ｐ２
（もったいない総研事業）

２ 産業人材を育成する事業 ・・・・・・・・・・Ｐ３
（北九州地域産業人材育成フォーラム事業）
※別紙１参照

３ 次世代を担う人材を育成する事業 ・・・・・・・・・・Ｐ３
（「北九州の企業人による小学校応援団」事業 ）
※別紙２参照

４ 都市格（文化力・教育力）を向上する事業 ・・・・・・・・・・Ｐ３
（「1000人の夢寄金」事業）
※別紙3参照

５ まちづくり推進事業 ・・・・・・・・・・Ｐ４

Ⅱ 法人運営事業 ・・・・・・・・・・Ｐ５

「公益法人法」を遵守することにより、法人運営を適切に維持・管理し、かつ、
当協議会の公益目的事業を円滑に遂行するために必要な、組織運営体制
および財務基盤の強化を図る。

（ 概 況 ）

令和７年は、昨年に引き続き北九州市も物価高騰が顕著で、年平均消費者物価指数は令和２年を１００とした場合、北九州市は１１３.５で前年比３.８%の上昇との事です（全国は１１１.９で前年比３.２%の上昇）。

日本銀行北九州支店の発表によると北九州の経済は緩やかに回復しているものの、回復ペースは鈍化。公共投資は増加、輸出は弱めの動き、設備投資は増加、個人消費は、物価上昇（前年比△４%程度）の影響を受けつつも緩やかな増加、雇用は緩やかに改善とされています。

しかしながら、令和８年に入り、中東情勢が米国介入により緊張を増し、原油供給、環境破壊などが深刻化し、世界的な混乱が起きており、予断を許さない情勢となっております。

その様な中、令和７年度の KPEC 事業は、これまでの主力の公益事業である；

①もったいない総研事業
②北九州地域産業人材育成フォーラム事業
③北九州の企業人による小学校応援団事業
④1000 人の夢寄金事業
に加えて、前年度に引き続き、法人事業として「風力発電人材育成事業」に取り組みました。

また、北九州活性化協議会の課題である財務改善につきましては、令和５年度以降黒字が続いていましたが、令和７年度は残念ながら赤字となりました。その主な理由はこれまで常勤役員の報酬は企業から出向という形で企業に負担していただいていましたが、出向元との雇用契約が令和６年度で終了したため、令和７年度からKPECが直接雇用することになったためです。

次年度以降も赤字は継続されると思われるため、事業費を確保するための対策は今後検討し、本年度内に臨時理事会並びに臨時評議員会を開催し、皆様にお諮りしたいと思います。また、今後も会員を増やしていくなど財務改善に取り組みつつ、事業を継続していきたいと思いますので、皆様のご理解とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

（事業報告）

Ⅰ　公益目的事業１

北九州市地域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与することを目的とした事業

１．“もったいない”を未来に引き継ぐ事業　（もったいない総研事業）

“もったいない”の概念を踏まえたシビックプライド（まちへの愛着・誇り）の醸成の企画・研究を行い、当協議会が提唱する”もったいない“の普及を図ることを目的とした事業。

１）資源循環型社会づくり施策の一環とした商品の企画・開発・普及を推進

(1)『北九州紙 えこっパー』の普及によるSDGsの推進

①『北九州紙 えこっパー』の普及促進

牛乳パック・古紙を再利用したリサイクルトイレットペーパー『北九州紙・えこっパー』を「北九州エコプレミアム選定商品（令和元年度に選定）」として効果的にＰＲするとともに、北九州市のホームページの暮らしの情報への掲載など、認知向上、普及拡大に取り組み、地域循環サイクルの実現を通じてＳＤＧsを推進した。

＜えこっパー販売数＞（１パック6個入り）

◇令和７年度販売数：162,368 パック（前年比 1,480 パック増）
◇累 計 販 売 数　：4,489,400 パック（平成 13 年度～令和７年度）

＜『えこっパー』のホームページでのＰＲ＞

◇北九州エコプレミアムホームページ　［選定検討会委員特別賞の紹介］
https://www.kitaq-ecotown.com/ecopremium/special/entry/797.php
◇北九州市ホームページ　［暮らしの情報（源回収された古紙の行方）］
https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kankyou/01100168.html

②『北九州紙・えこっパー』による環境教育の実施

全国牛乳容器環境協議会や北九州の企業人による小学校応援団事業等と連携して、牛乳パックリサイクル製品である『北九州紙・えこっパー』の企画意図と製作過程を環境教育教材にした出前授業を継続実施した。

２）市民が評価する北九州市の産業、文化、社会、生活等の中にある“価値あるもの”を「北九州市民財産（仮称）」として、“もったいない”の概念を踏まえた新しいシビックプライドとして捉え、これを体系的整理し街づくりに活用していく、「もったいない総研事業」の企画、研究および普及を推進する。

（１）自然環境保全ネットワークの会（通称：自然ネット）

北九州市環境局自然共生係が事務局となり北九州市の自然環境保全、動植物の調査など、北九州市のCOP15への取り組みを進めている任意団体に参画した。

※自然ネットは、今後市の事業に取り込み実施していくため、令和８年3月末日をもって解散となった。

（その他）ギラヴァンツ北九州限定ver.えこっパー

えこっパーを製造・販売している大分製紙㈱が令和８年３月７日のｖｓ宮崎とのホームゲームにおいて、家庭で出た「雑がみ」をスタジアムに持ってきた方にギラヴァンツ北九州限定ver.えこっパーをプレゼントした。

２．産業人材を育成する事業

「北九州地域産業人材育成フォーラム」を編成し、「高度人材育成プログラム事業」「社会人育成プログラム事業」「青少年育成プログラム事業」及び「産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備事業」を実施し、産学連携による産業人材育成システムの構築に向けた企画開発と事業実施を行った。

※事業報告の具体的内容は、

「2025年度北九州地域産業人材育成フォーラム　事業報告書」（別紙１）の通り

３．次世代を担う人材を育成する事業　（北九州の企業人による小学校応援団事業）

「北九州の企業人による小学校応援団」を編成し、北九州市内小学校１２７ 校を対象に、出前授業、教員研修及びＰＴＡ活動促進支援事業を実施した。

※事業報告の具体的内容は、

「2025年度北九州の企業人による小学校応援団事業報告書」（別紙２）の通り

４．都市格（文化力・教育力）を向上する事業（1000人の夢寄金事業）

民間の力を結集し、教育や文化的活動を行う法人・個人・ 団体に対して活動費用を助成し、北九州市の未来のために、このまちの教育力・文化を共に育み、真に魅力ある まちづくりを進めて行くことを目的とした 「1000 人の夢寄金」事業

※事業報告の具体的内容は、

「2025年度1000人の夢寄金事業報告」（別紙3）の通り

５．まちづくり推進事業

北九州市域の新しい課題、ニーズを適正に把握することにより、産・学・官・民の連携軸として北九州市域の活性化と持続的発展を図る事を目的とした事業。

１）産学官民連携による地域活性化事業の推進

(1) 新規事業の企画開発のための調査・研究の実施

北九州市の様々な課題、優位性などを調査し、令和7年度も前期と同じく「北九州市グリーン成長戦略（エネルギー戦略）」に関する情報収集等を実施した。

(2) 地域づくりネットワークの構築

公益財団法人としての組織的環境を活用し、産学官連携による地域づくりの視点を踏まえた地域活性化事業を推進する。

① 北九州地域経済団体連携フォーラムの運営

北九州市内の経済団体による「北九州地域経済団体連携フォーラム」(事務局KPEC)を編成し、各種の情報の共有と事業運営における連携、協働の環境づくりを行う。

ｉ）共同プロモーション事業の実施

各団体の保有する各種情報及び事業について、共同広報や参画支援等の事業運営にかかる協力や支援を行う計画を実施した。

② 地域づくりネットワーク福岡県協議会への参画

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」へ参画し、地域活性化施策の研究、調査及び研修を行うと共に、北九州市域の地域づくり団体との橋渡しを行った。

(3) まちづくり事業の支援、協働の実施

① 北九州ミュージックプロムナードの支援

平成８年にKPECの提唱で始まった北九州市民参加交流型の音楽フェスティバルとして定着している「北九州ミュージックプロムナード実行委員会」に参画し、運営を支援した。

② 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

ビジターズ・インダストリー創出を目的とした「北九州市にぎわいづくり懇話会」に参画し、行政と協働でにぎわいづくり事業の企画、実施を行った。

２）まちの活性化に関する情報発信事業

（１）情報受発信の強化

KPECの運営趣旨と活動及び地域活性化に関する各種情報を地域に伝えるための情報発信事業を推進した。

① KPECニュースの発行

KPECの運営及び事業を、KPEC会員及び関連団体に広く広報するために、KPECニュースを発行した。

＜KPECニュースの発行＞

◇ KPECニュース Vol70　令和7年5月30日発行（発行部数1000部）

② ホームページの運営

専用ホームページの充実を図り、KPEC 事業活動情報をタイムリーに発信した。

Ⅱ 法人運営事業

「公益法人法」を遵守することにより、法人運営を適切に維持・管理し、かつ、当協議会の公益目的事業を円滑に遂行するために必要な、組織運営体制および財務基盤の強化を図った。

１．事業運営体制の検討

１）KPECの事業運営・管理体制の強化

(1) 経営基盤の強化に資する事業開発・開拓

北九州市より風力発電人材育成事業に関する補助業務の受託を継続。
北九州市グリーン戦略を側面から支援し、且つ、市内の工業高校、大学校と企業の連携を推進できた。同時に財政面の改善を図る事ができた。

(2) 寄付金事業の事業化

特定の寄付事業を確立する情勢に至らず、具体化できなかった。

２）事業運営体制の整備促進

事業の地域における位置づけが確立し、地域システム化が進んだ事業（北九州地域産業人材育成フォーラム事業、北九州の企業人による小学校応援団事業等）について、KPECの役割と各事業における関係機関・組織等（ステークホルダー）の分掌を明確にして、事業の自立化を含めた検討を行った。

３）会員募集と会員サービスの向上

（１）会員募集の強化

新規会員募集の推進については、前年度に続き、地道な募集活動を継続したが、会員数は10名減となった。

◇令和７年度賛助会員数：89 名（対前年：10 名減）
◇令和７年度賛助会費額：2,310 千円　（対前年 290 千円減）

（２）会員サービスの向上

賛助会員に対して、KPEC が実施する各種地域活性化事業への案内、行政や他団体からの講演会開催等の情報提供を行い、会員との協働による地域活性化に務めた。

２．会議等の実施

定款等に基づき、所定の会議を開催した。

また、法人自ら取り組んだガバナンス強化策として、評議員選定委員会を設置しており、法人の透明性・公正性の確保に努めている。

１）理事会の開催

①定時理事会

第１回：令和７年６月５日

第２回：令和８年１月29日

②臨時理事会

第１回：令和７年６月20日

第２回：令和８年３月17日

２）評議員会の開催

①定時評議員会

第１回：令和７年６月20日

第２回：令和８年３月５日

③ 臨時評議員会

第１回：令和７年４月14日

第２回：令和８年３月27日

３）執行役員会議の開催　（月１回）

別紙４参照

別紙　1

2025 年度
北九州地域産業人材育成フォーラム事業報告書

北九州地域産業人材育成フォーラム
Kitakyushu Forum for Development of Human resources and Industries

Ⅰ　概　況

これまで「産業人材育成フォーラム」事業は；

① 高度人材育成を目的とした、「研修型」、「実践型」等各種インターンシップの実施

② 中堅・中小企業の中核技術者、経営人材の育成を目的とした、地域大学の大学院を活用した各種プログラムの実施

③ 産学連携による早期工学教育の環境づくりを目的とした、ものづくりに関する教育機会づくりや早期工業教育の開発・実施と、国や北九州市が推進するインターンシップ、リカレント教育、まち・ひと・しごと創生総合戦略による地方創生インターンシップの推進等と連動した各種事業を進めてきた。

令和７年度は、設備投資計画が前年を上回るなど内需を中心とした底堅い成長が続き、また、雇用情勢も穏やかに改善するなど、コロナ禍からの経済の回復もはっきりと表れ始め、社会経済活動は緩やかに改善した１年となり、各事業についても積極的に実施することができた。特に１年生インターンシップでは、北九州市立大学が「インターンシップ実習」として履修科目に位置付けるなど取組が推進された。インターンシップ参加学生も、自らが考え着眼点を見つけ、企業の成長戦略や解決策を生み出すプロセスを体験したことにより、産業人材として自身の能力の飛躍の一助となるなどインターンシップの本来の成果を出すことができた。

しかしながら、一部でインターンシップの中止や学生の都合によるインターンシップ辞退、社会人プログラムの準備停滞が生じ、皆様の期待に十分に沿えることができなかった。

令和７年度の北九州地域産業人材育成フォーラムの事業内容。

１.高度人材育成プログラムの企画、運営 【継続】
- １）地域連携型インターンシップ事業の拡充、実施
- ２）連携校における地域連携型インターンシップの周知と参加促進事業の実施
- ３）地域連携型インターンシップ運営のための環境整備

２．社会人育成プログラム事業の支援 【継続】
- １）中堅・中小企業の経営・管理者育成に向けた MBA 活用プログラムの支援
- ２）中堅・中小企業の中核技術人材等の育成に向けた支援

３．　青少年育成プログラム事業の企画、運営 【継続】
- １）「北九州の企業人による小学校応援団」と連携したものづくり教育の環境づくり

４．産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備 【継続】
- １）フォーラム協働企業の有志会員化の推進
- ２）フォーラム事業の広報システムの構築とプロモーション事業の実施

Ⅱ． 事業の内容

1． 高度人材育成プログラムの企画、運営

「地域連携型インターンシップ」の中核事業である「研修型(短期)インターンシップ」に関しては、「課題」を切り口に、学生が考え、着眼点を見つけ、課題形成を行い、自らが解決策を生み出すプロセスを体験できる実施内容へ、企業のレベルを向上しつつ、「実践型(長期)インターンシップ」の環境整備と拡充を強化する。また、ニーズがでてきた、博士課程インターンシップの環境づくり、企画、開発を行った。

1）地域連携型インターンシップ事業の拡充、実施

(1) 研修型(短期)インターンシップ事業の拡充、実施 【継続】

大学から職場・社会への円滑な移行のための社会人基礎力の修得と、地元中堅・中小企業の認知向上による就職機会の創出等を目的に、連携校と協働で「研修型(短期)インターンシップ」事業を実施する。確実なマッチングに加え、内容の「課題化」を目指して活動を実施した。

《研修型(短期)インターンシップの実績推移》

	2021 年度		2022 年度		2023 年度		2024 年度		2025 年度	
	登録	実施	登録	実施	登録	実施	登録	実施	登録	実施
学校(校)	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4
企業(社)	59	34	63	29	71	23	73	16	58	24
学生(人)	55	49	47	47	50	50	35	35	62	61

① インターンシップの対象拡大と柔軟な対応 【継続】

域外工学系大学生への北九州地域企業の認知度を向上し、留学生へも情報がとりやすい環境を整え更なるとインターンシップの拡大を図る。
また、学生がインターンシップを利用しやすい環境を創るため、インターンシップ受入時期や期間等の柔軟な対応に努めた。

② キャリアアップ型インターンシッププログラムの開発と環境づくりの推進 【継続】

連携校における学生のキャリア形成と就職指導とを有機的に組み合わせて、年次に合わせて段階的にステップアップする『キャリアアップ型インターンシッププログラム』の開発と環境づくりを行った。

③ 文理融合を推進する為、文系学生の理系インターンシップ参加を推進【継続】

文系学生が理系インターンシップに参加、体験する機会を提供し、学生の選択肢を拡大、また、今後不足すると予測されている ＩＴ系技術者への可能性などを探りつつ、参加に向けた環境づくりを行った。

(2) 実践型(長期)インターンシップ事業の環境整備と拡充 【継続】

将来の産業を担う人材育成のため、企業、学校、学生に実践型(長期)インターンシップの更なる理解を促し、産学協働による環境整備と拡充を行った。

《実践型（長期）インターンシップ実績推移》

年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
学校(校)	1	1	1	1	1
企業(社)	4	5	4	4	4
学生(人)	7	5	5	4	6

令和 7 年度 実践型（長期）インターンシップ実績

企業・組織名	九州工業大学 工学部	九州工業大学 情報工学部
(株)ブラテック	1 名	1 名
(株)リョーワ		1 名
日本ヒューム(株)		1 名
(株)ハピクロ		2 名
合計 4 社	1 名	5 名

① 実践型(長期)インターンシップ参加者増加のための施策の実施 【継続】

インターンシップ受入企業の企業情報や研修内容および実際に体験した学生の声など、学生に参加を促す情報をタイムリーに提供し、実施企業および参加学生の拡大を図った。

② 北九州高専の実践型(長期)インターンシップコースの拡充支援 【継続】

北九州高専の長期インターンシップ（本科、専攻科）の参加企業拡充に向けての支援を行った。

《北九州高専長期インターンシップ実績推移》　※フォーラム協働企業のみ

	2023 年度		2024 年度		2025 年度	
	専攻科	本　科	専攻科	本　科	専攻科	本科
企業(社)	3	3	3	2	1	0
学生(人)	4	3	4	2	1	0

（３）低学年に対応したインターンシップの支援 【継続】

北九州市が力を入れている SDG'S や再生可能エネルギーにつながる産業人財育成に向けて、本年度から開始された北九州市立大学の「インターンシップ実習」との連携や産業医科大学　産業保健学部 2 年インターンシップなど、長期に向けたキャリアアップ型インターンシップに取り組む 1 、2 年生を対象にしたインターンシップの受入企業拡充支援を行った。

《北九大　国際環境工学部 1 年　インターンシップ実績推移》

年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
企業(社)	9	7	7	7	12
学生(人)	12	13	12	11	15

注）2022 年度特記：新型コロナウイルス感染者確認により、1 社（2 名）途中中止

《産医大　産業保健学部２年　インターンシップ実績推移》

年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
企業(社)	20	20	24	22	8
学生(人)	19	18	20	21	20

注）2021 年度特記：新型コロナウイルス感染確認により、1 社（1 名）途中中止

２）連携校における地域連携型インターンシップの周知と参加促進事業の実施

「地域連携型インターンシップ」事業の運営目的と活用意義を学生及び学内関係者に周知し、インターンシップ参加を促進するための各種事業の企画、開発、運営を行った。

(1)企業研究および交流会の場の提供 【継続】

学生、大学教員・スタッフ等の関係者の地元企業の認知促進を目的として、インターンシップ以外でも北九州地域の企業と交流出来る機会を設けた。
実施方法については、企業や学校などの要望に応じて実施した。

【事例】

◎北九州市内企業インターンシップ説明会

会場：九州工業大学　戸畑キャンパス　総合教育棟 C-3C 講義室

開催日	参加企業　※1	参加者　※2
2025/5/14・21	R7 年度研修型 IS 実施企業から各日程４社	工学部・工学府　学生　合計 89 名

※1　地元中堅・中小企業を中心に学校が選定

※2　「産業人材形成概論 A」授業の一環として開催(受講者は必修)

◎企業見学

開催日	見学企業	参加学校	参加	
			学生	教員
2025/11/13	三島光産株式会社	九州工業大学 工学部機械・機械制御系	69 名	2 名

(2)「北九州地域産業人材育成フォーラム」ホームページの拡充 【継続】

昨年度よりフォーラムインターンシップの情報のみを集約した単独ＨＰの運用を開始し、学生さんがよりスムーズに、インターンシップの情報にたどり着けるようにすると共に、参加者拡大に向け、実施の有無など早期情報発信に努めた。

(3) 連携校における各種事業プロモーションの実施環境の整備 【継続】

連携校において実施する「インターンシップガイダンス」でのプロモーションや広報チラシの配布等の学内プロモーションについて、学生の行動パターンに合わせたプロモーション方法の企画検討・支援を行った。
なお、ガイダンスでは事務局も出席し、インターンシップについて説明を行った。

【ガイダンス R7 年度実績】

・インターンシップ全体について

学校名	実施方法・日程	対象学生	参加学生数
産医大	オンライン （5/20）	産業衛生学科 2、3 年	40 名 （2年19名、3年21名）
北九大	対面（5/14）	国際環境工学部・ 工学研究科	32 名
九工大 （戸畑）	対面 ※ (5/14、5/21)	工学部・工学府 「産業人材形成概論」 履修学生	合計 89 名

・長期インターンシップ 特化

学校名	実施方法・日程	対象学生	参加学生数
九工大 （飯塚）	オンライン（10/1）	情報工学部 物理情報工学科３年生	50 名

・北九州市立大学「インターンシップ実習」

学校名	実施方法・日程	対象学生	参加学生数
北九大	オンライン（5/28）	「インターンシップ実習」 履修学生	25 名

3）地域連携型インターンシップ運営のための環境整備

（1）地域連携型インターンシップ運営のためのコーディネート機能の維持 【継続】

北九州テクノサポート（ＫＴＳ）のインターンシップのコーディネート機能を維持し、合わせて支援を行った。

（2）インターンシップ事業の円滑運営のための各種アンケート・調査の実施 【継続】

インターンシップに関連する各種アンケート・調査を実施、分析し、今後のインターンシップ事業運営に活用した。

《インターンシップ関係調査》

- 地域連携型インターンシップ実施後学生の意向調査(全大学：ＩＳ実施学生)
- 地域連携型インターンシップ実施企業の事業実施後状況調査(ＩＳ実施全企業)
- 連携大学・高専におけるインターンシップ実施状況調査(全大学、全学部)

《就職状況関係調査》

- 連携大学・高専における地元就職状況調査 (全大学・全学部全学科別)
- 地域連携型インターンシップ参加学生の地元就職状況調査 (全大学・全学部)

２．　社会人育成プログラム事業の支援

１）　中堅・中小企業の経営・管理者育成に向けたＭＢＡ活用プログラムの支援

(1) 中堅・中小企業向け「ＭＢＡサテライトフォーラム」の開催・支援【継続】

学内の体制変更により、当初の計画に沿った対応が一部困難となったため、本年度の実施は中止し、次年度に向けての体制強化に努めた。

(2) 経営管理者のための「実践経営学講座・車座塾」の支援 【継続】

ケースメソッドによる実践的経営学講座(車座塾）として、K2BS 卒業生の現役経営者を講師として招き、「新市場開拓」をテーマにしたフィッシュボールメソッド方式の講座を実施、フォーラム協働企業へのプロモーション活動を支援した。

開催日	事業名	参加者
令和 7 年 6 月 21 日（土）	模擬経営会議 「問いをひらく、経営対話の 90 分」	32 名

２）中堅・中小企業の中核技術人材等の育成に向けた支援

(1) 北九州ドクターチャレンジプログラムの活用促進 【継続】

北九州地域企業の中核技術人材の専門技術力の向上と研究開発の促進を図るため九工大大学院及び北九大国際環境工学部大学院の「長期履修制度」のフォーラム協働企業へのプロモーション活動を実施した。

(2) 北九州テクニカルカレッジプログラムの活用促進 【継続】

九工大の「学術コンサルティング制度」の活用促進を進めるため、フォーラム協働企業へのプロモーション活動を実施した。

＜学術コンサルティング制度活用状況＞

年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
活用実績 （全体）	57 件	49 件	71 件	53 件	57 件	65 件
（内、市内企業）	（14 件）	（5 件）	（8 件）	（8 件）	（7 件）	（5 件）

※令和 7 年度は令和 8 年 3 月末時点

＜令和 7 年度の特徴（前年度の違いや企業様の反応）＞

前年度に比べ、1 契約当たりの金額は減少したが、件数は順調に増加しており、引き続き本学の学術コンサルティングの価値を企業様から高く評価していただけていると受け取っている。
また、北九州市内からの活用状況の件数は昨年度から 2 件減ったが、北九州市宇宙産業推進室様との学術コンサルティング契約は FAIS 様とも連携しながら、昨年に引き続き実施されており、本契約を通して市内企業との連携はより深まっている。
宇宙産業に限らず、介護・AI 関連など今後人材が必要となる分野についての学術コンサルティングが増加しており、本学研究者の幅広い知見が認知され件数の増加につながっているものと受け取っている。

(3) 経営管理者向け「自社の魅力認識講座」の開催 【継続】

北九州地域の中堅・中小企業を対象に、自社の強み認識のための講座形式勉強会の企画・実施により、参加企業の事業価値を高め、長期的な企業成長戦略の策定・構築を支援した。

・ 参加企業 2 社

３． 青少年育成プログラム事業の企画、運営

産学連携による早期工学教育の環境づくりを目的として、「北九州企業人による小学校応援団」と連携したものづくり教育の環境づくりを行った。

1）「北九州の企業人による小学校応援団」と連携したものづくり教育の環境づくり 【継続】

「北九州の企業人による小学校応援団」の出前授業について、フォーラム協働企業（ものづくり企業）を対象に「ものづくり」をテーマとした出前授業の募集を行い、青少年育成プログラムが目指す早期工学教育の環境づくりを多面的に支援した。

４． 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

１） フォーラム協働企業の有志会員化の推進 【継続】

フォーラム協働企業をベースにして、フォーラム事業運営の基盤企業となる有志会員企業の募集方法について見直しを行った。

２） フォーラム事業の広報システムの構築とプロモーション事業の実施 【継続】

連携校におけるインターンシップ参加、地元就職促進のための地元企業情報の周知促進ツールとして、北九州地域産業人材育成フォーラムのインターンシップホームページの拡充を行った。さらに、行政や連携校、企業、団体などのホームページへの告知、リンクなど行い、情報をより広く、より多くの方の目に留まるよう、連携を進めた。

令和７年度　北九州地域産業人材育成フォーラム　決算

（円）

	項　目	令和7年度予算額	令和7年度決算額	内　訳
収入	**1)負担金**	**7,300,000**	**7,300,000**	
	①北九州市	6,300,000	6,300,000	
	②北九州活性化協議会	1,000,000	1,000,000	
	2)会費	**2,050,000**	**1,960,000**	
	①企業会員	1,050,000	960,000	企業負担金 30,000×32社
	②大学･高専	1,000,000	1,000,000	大学等会費 300,000×3校　100,000×1校
	③交流会	0	0	
	3)雑収入	**0**	**8,241**	
	①出展料等	0	0	
	②企業見学ﾊﾞｽﾂｱｰ補助	0	0	
	③預金利息	0	8,241	
	4)前年度繰越金	**200,000**	**326,088**	
	【収入合計】	**9,550,000**	**9,594,329**	

	項　目	令和7年度予算額	令和7年度決算額	内　訳
支出	**1)人件費**	**0**	**0**	
	2)謝金	**297,120**	**297,120**	
	①専門家謝金	297,120	297,120	企業の強み認識講座　講師
	3)旅費	**429,000**	**343,406**	
	①旅費等	60,000	10,660	近距離旅費　等
	②専門家招聘旅費	369,000	332,746	企業の強み認識講座　講師
	4)委託料	**7,500,000**	**7,622,920**	
	①KTS業務委託	2,530,000	2,530,000	KTS　業務委託料一式
	②KPEC業務委託	4,670,000	4,876,000	KPEC　管理費、人件費一部負担等、業務委託料一式
	③その他業務委託	300,000	216,920	HP、ｸﾗｳﾄﾞ
	5)その他経費	**1,323,880**	**1,061,321**	
	①会場借上げ料	70,000	38,000	会議室等
	②印刷費	300,000	145,695	社会人講座･ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ 等
	③通信運搬費	35,000	171,213	電話料･サーバー利用料、各種調査票、ﾘｰﾌﾚｯﾄ郵送料
	④事務消耗品費	60,000	59,260	事務用消耗品費、DX対応費（ﾏｲｸﾛｿﾌﾄ365ﾗｲｾﾝｽ）等
	⑤会議費	46,000	46,750	ZOOMｱｶｳﾝﾄ費、会議時飲み物代　等
	⑥交流会費	0	0	
	⑦使用料及び賃借料	762,880	593,693	各種機器使用料（バス借用含む）、事務局関係諸費他
	⑧参加補助費	0	0	
	⑨雑費	50,000	6,710	振込手数料　等
	【支出合計】	**9,550,000**	**9,324,767**	
	次年度繰越金	0	269,562	

別紙　２

2025 年度
北九州の企業人による小学校応援団事業報告書

Ⅰ 成果

今年度も、企業、教育委員会等の協力を得て、講師派遣プロジェクト及び社会体験プロジェクトとして児童への出前授業、教職員・保護者（ＰＴＡ）向けの研修、親学推進プロジェクトを継続実施した。その他、本事業の継続的な発展と円滑化を図るために、市内教育関係者と経済界の連携・協力や交流を促進するための環境づくりに努めた。

支援対象は市内の全市立小学校127校で、出前授業の利用は申し込みが58校、実施回数は378回であった（令和6年度は56校、318回）。

小学校応援団は2011年の発足から15年目を迎え、学校現場での評価の高まりや体験学習へのニーズの増大もあって出前授業の申込、実施ともに増加を続けており、地元企業全体で子どもたちの育成を支援する本事業の仕組みと実績に高い評価を受けている。

Ⅱ 支援事業の推進

企業等の協力を得て、親学推進プロジェクト、講師派遣プロジェクト及び社会体験プロジェクトとして児童への出前授業、教職員・保護者（ＰＴＡ）向けの研修等を継続実施した。その他、本事業の継続的な発展と円滑化を図るために、市内教育関係者と経済界の連携・協力や交流を促進するための環境づくりに努めた。

1. 講師派遣プロジェクト

児童を対象とする出前授業、教諭や管理職の研修会への講師派遣等についての環境づくりと支援を行った。

１） 出前授業・研修の継続実施

企業等の協力を得て、児童への出前授業、教職員・保護者（ＰＴＡ）向けの研修等を継続実施した。

２） 出前授業・研修の業務円滑化の推進

（１）利用方法の周知徹底

講師企業ごとに、事前の準備及び当日のやり方などが異なるため、出前授業実施校が利用方法の把握が難しい場合がある。これらの課題を解消するために、事前・当日の利用方法について、申し込み受け付け時に小学校へ再度通知を行うなど、きめ細やかな対応を徹底した。

（２）ガイドブックの制作と配布

出前授業のテーマ一覧や授業内容及び申込み方法などわかりやすく紹介する「ガイドブック」の制作と配布を継続して行った。また、講師企業への理解度を上げることが、小学校にとって安心して出前授業利用できることに繋がるため、講師企業紹介を企業と相談しながら盛り込んだ。
さらに、小学校からニーズの高いSDGsテーマやリモート授業について、現場の先生にわかりやすく周知した。

３） 学校現場のニーズに対応した出前授業の環境整備

企業からの出前授業の登録に加え、小学校側の希望テーマに対応した出前授業

の環境づくりを行い、ニーズに対応した出前授業の充実を図った。毎年4月に実施している小学校へのアンケート調査をもとに、小学校からのニーズの高い新規テーマの開拓を検討した。

（１）小学校の個々のニーズに対応したオリジナルテーマの継続

平成30年度より試験的に実施している、小学校の個々のニーズに対応したオリジナルテーマへ対応する出前授業の実施について、協力企業等の環境を調査し、実施体制の構築を図った。

（２）多様なニーズへの対応

小学校のニーズが多様化しているため、小学校に対しニーズ調査を行い、調査結果をもとにニーズの多いテーマについては固定テーマの設置が可能となるように、講師企業の開拓に努めた。

2. 親学推進プロジェクト

PTA参加の促進、企業従業員を対象にした親学推進について、普及に向けた具体策を図ると共に、ＰＴＡ活動支援についても継続実施した。

１） ＰＴＡへの親（社員）のＰＴＡ総会など各種事業への参加促進

校長会・ＰＴＡ協議会・小学校応援団の連盟で小学校応援団参加協力企業に対して、ＰＴＡ総会や各種事業の参加を促す方法について検討した。さらにPTAの在り方についてはニーズや考え方の多様化が進んでいることなども考慮し、保護者への周知の是非、方法については慎重に検討した。

２） 参加協力企業における親学推進

参加協力企業の従業員を対象に、小学校の現況や学校との関わり方等の理解促進を目的とした親学推進事業（出前説明会）について、必要性などについて引き続き調査を行った。

３．社会体験プロジェクト

児童の社会体験学習の支援・協力や、教諭や学校管理職の研修の受け入れについて、小学校の要請に対応した環境調整と支援事業を行った。

４．環境づくりプロジェクト

小学校応援団事業の円滑な運営環境を構築するため、市教委や教育関係者と経済界の連携・協力・交流の促進を図った。

・小学校長との意見交換会の開催

小学校応援団の支援活動をより実りあるものとして継続実施できるようにするためには、学校現場の意見を直に聞きながら活動を進めることが重要であるため、必要に応じて小学校長との意見交換会を開催することとしているが、小学校応援団の認知度も向上し、出前授業の申し込みも伸びていることや、教育現場からの意見や要望のヒアリングもアンケート等で実施できていることなどを踏まえ、今年度は開催を見合わせ、今後の小学校長との意見交換の在り方について検討した。

5. 参加企業の拡大と活性化

小学校応援団に参加する477の企業（団体）の活性化につながる事業を検討した。具体的には参加企業が地元への社会貢献をPRできるようSNS等を活用した広報体制の充実を図るとともに、企業側の人材育成、出前授業を通じたOJTのメリットなどを周知した。また参加企業のさらなる拡大についても検討を行った。

・参加企業にアンケートを実施し、ヒアリングを行った。
・企画委員会において、参加企業拡大と活性化に向けた実施プロジェクトの検討を行った。

6．広報の充実化

小学校応援団事業は、北九州地域の企業が協働して、出前授業などを通じて、小学校支援を行う全国的にも珍しく取り組みである。また、文科省が掲げる学校を核とした地域の創生を目指す「次世代の学校・地域」創生プランの実現に向けた具体的な取り組みであり、地域協働の体制づくりが求められる。関係者のみならず、地域に周知する必要があるため、以下の項目について重点的に実施した。

1） 小学校関係者の認知向上と活用促進のための広報の実施

教員に対して小学校応援団の主旨及び内容、利用方法などの説明を実施し、事業の周知を図った。

2） 地域企業等の認知向上と協力環境の構築のための広報の実施

パンフレットの配布やホームページによる事業紹介を積極的に実施し、企業への周知を図った。

3） 保護者や地域コミュニティ等の理解と協力環境の醸成のための広報の実施

小学校応援団のホームページを更新し、地域コミュニティ等における小学校応援団事業の周知を図った。また、適宜、応援団の活動状況を報道機関に情報提供した。

Ⅲ　支援体制の充実

1．学校及び講師企業の支援体制の構築

平成26年度に事務局と学校を繋ぐ役割としてコーディネータを設置し、本事業の広報等を担ってきた。その成果もあり全小学校に本事業を周知することができ、役割は果たせたものと考える。今後は、新たに学校と講師企業を中心に支援する体制を強化する。

2．参加協力企業等の拡大

全校（127校）体制に対応した出前授業の実施環境の構築のため、市内の関係機関等の協力を頂きながら参加協力企業の拡充を行った。

Ⅳ　三者会議の開催

北九州市立小学校の教育支援に関する協定書（平成２５年４月１日締結）に基づき、当応援団、北九州市教育委員会及び(公財)北九州活性化協議会との三者調整会議を昨年度に引き続き開催し、支援事業の現状について共通認識を図るとともに、方針に関する調整を行う等、事業の円滑な推進を図った。

北九州の企業人による小学校応援団　令和7年度決算

（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

収入　　単位：円

項目	予算額	実績額	参考（令和7年度予算額）
負担金	7,500,000	7,500,000	＜負担金拠出額＞ 北九州市　5,500,000 北九州活性化協議会 2,000,000
利息	0	5,217	
計	7,500,000	7,505,217	7,500,000

支出　　単位：円

項目	予算額	実績額	説明
支援事業費	810,000	1,091,996	講師謝金、出前授業ガイドブック
講師企業及び 学校支援業務費	700,000	400,000	費用弁償等
広報・プロモーション推進費	580,000	624,800	パンフレット作成等広報費、ホームページ・システムの運用、充実等
人件費	4,444,000	4,294,000	事務局人件費
事務局経費	970,000	1,094,421	会議費、交通費、消耗品費、通信運搬費、事務室等使用経費等
計	7,500,000	7,505,217	

別紙 3

このまちの教育・文化を私たちの手で
1000人の夢寄金
公益財団法人北九州活性化協議会

2025年度 [令和７年度]
1000人の夢寄金事業報告

ANNUAL REPORT 2025　2013/4 ～ 2026/3

2025年度、1000人の夢寄金から助成した各プロジェクトを通じて、
合計 2,368人の市民の方々に ”楽しい”、”嬉しい”、”面白い”、”助かった” をお届けできました。
皆様のご寄付のおかげです。ありがとうございました。

Contents （2026年5月発行）

P1　／「1000人の夢寄金」について
P2-3　／ 令和7年度「1000人の夢寄金」寄付金募集の状況
P4-5　／ 令和7年度「1000人の夢寄金」助成事業の状況
P6-7　／ 第1回～第13回「1000人の夢寄金」助成状況一覧

1000人の夢寄金について
～ 市民による市民のための寄金 ～

「1000人の夢寄金」は、
（公財）北九州活性化協議会（KPEC）が平成24年10月に設立した
“ 市民による市民のため ”の民間寄金です。
北九州市の都市格（教育力·文化力）を高めることを目的に、
市民のみなさまからご寄付を賜り
ジャンルを問わず市民の教育·文化活動への支援を行っています。
この事業は令和7年度に14年目を迎えました。
平成24年の事業開始から令和7年度までの14年間で
累計6,413万5千円の寄付をいただき
92団体へ2,425万7千円の助成を行っています。

寄付金を募集しています！！

「このまちのために何かしたい」
「誰かと夢を共有したい」
「世の中の役に立てていることを実感したい」

そんな思いを集める地域貢献の新しいカタチ。ぜひ、お知り合いの方にご案内ください。

ご寄付の種類

① 基本ご寄付（1年に一度）
個人·団体：1口 3,000円 / 法人：1口 10,000円

② ご遺贈などのご寄付
「遺贈」「香典返しに代えて」など、故人のご意思やご家族の思いをご寄付として承ります

ご寄付の方法

専用の「払込取扱票」による銀行振込
※毎年の継続的なご寄付にご協力いいただける方は、預金口座引落も可能です。

お問合せ先
公益財団法人 北九州活性化協議会
TEL:093-541-3122 / FAX:093-541-0636 / E-Mail:yume@kpec.or.jp

詳細はホームページでもご覧いただけます
https://www.kpec.or.jp/yume
1000人の夢寄金

《 1000人の夢寄金 令和7年度事業報告 》

01 寄付金募集事業

令和7年度も多数の皆様から温かいご寄付をいただきました。
ご支援いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

令和7年度 寄付金合計：128万5千円
（寄付募集期間：令和7年4月～令和8年3月）

A + B + C

寄付金募集事業の内訳はつぎのとおりです。

基本寄付

個人・団体一口3,000円、法人一口10,000円を基本として寄付の募集を行いました。
「寄付のお願い」文書を発送するとともに、寄付者の振込手続き効率化と継続的な寄付を目的とした口座引落しによる寄付者の登録を推進しました。
また、ホームページからご寄付の申込ができるようにしました。
この結果、102の個人・団体・法人の皆様からご寄付をいただきました。

A 基本寄付金合計：80万6千円 《 102件 》

プロジェクト寄付

プロジェクト寄付事業としてボランティアグループ“シマウマ組”が主催するチャリティーバザー「クラフト・チクチク de マルシェとワークショップ」は、今年も盛況を博しました。
また、“シマウマ組”が製作する、小倉織のぬいぐるみが引き続き好評で、“シマウマ組”のみなさまから以下のとおり、ぬいぐるみ（シマウマ・カバ）販売によるご寄付をいただきました。

B プロジェクト寄付金合計：27万9千円

「縞縞のシマウマ」「時時ヨコシマなカバ」の販売



「縞縞のシマウマ」「時時ヨコシマなカバ」は、ボランティアグループ“シマウマ組”のみなさんが、小倉織の端切れを使用して、手作りで製作しています。ぬいぐるみの購入代金が寄付になる仕組みで、平成29年4月から本格販売を開始しています。
このぬいぐるみは、“小倉縞縞 本店”様で販売しています。
また、平成30年から、“北九州市のふるさと納税返礼品”に選定されています。

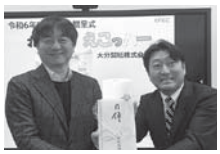


特定寄付（使途指定の寄付）

C 特定寄付金合計：20万円

※ 大分製紙株式会社様からの寄付金

大分製紙株式会社からのご寄付



令和8年3月10日「北九州紙・えこっパー」を製造・販売している大分製紙株式会社様より、「北九州紙・えこっパー」の売上の一部のご寄付をいただきました。
ご寄付いただいた寄付金は、市民の皆様の教育・文化活動への助成として活用させていただきます。



大分製紙株式会社様からは平成28年度から継続してご寄付をいただいており、これまでに総額200万円の寄付をいただいています。
※「北九州紙・えこっパー」は1パックにつき1円が寄付金となります。

寄付金の推移

（単位：千円）

H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
1,975	1,786	2,003	583	2,111	2,041	2,272	1,973	42,678	1,369	1,338	1,380	1,341	1,285

合　　計	64,135

02 助成事業

令和7年度（第14回）助成事業は、7月に一般公募を行い、「1000人の夢寄金」審査委員会による審査を経て、5事業への助成が決定しました。決定した5事業のうち「体験学習を通じた自然環境保護の未来人材育成プロジェクト」が計画していた講師の諸事情により実施が困難になったため、やむを得ず助成辞退に至りました。

- 助成事業の募集：令和7年7月1日～7月31日
- 助成事業の審査：令和7年9月5日、9月12日（審査委員会）
- 助成結果　　：助成件数4件（応募件数20件）　助成金額合計125万9千円
- 助成期間　　：令和7年10月1日～令和8年9月30日

第14回 助成先（4件）

こどもの日！ Jazz For Kids 0歳からのジャズコンサート

Jazz For Kids 実行委員会 / 会長 ハート香織

赤ちゃんの泣き声も話し声も音楽の一部！

「小さな頃から気軽にジャズ演奏を聴き、音楽を楽しめる場所をつくりたい！」と企画。J:COM北九州芸術劇場 小劇場で2026年5月5日(祝・火)に2回開催しました。配布した卵型のマラカスを手に、こども達は演奏にあわせて踊ったり、歌ったり。
絵本朗読 × ジャズの新しい取り組みにも挑戦。こどもも大人も、ジャズ好きの方も、ジャズに馴染みのなかった方も、おもいっきり楽しめるコンサートでした。「助成のおかげで独自の物語と音楽を組み合わせたり、ハイハイできるプレイマットを設置したりするなど、新しい表現や試みに挑戦できました」と、ご寄付者への感謝の声が届いています。



椅子席の前にプレイマットを敷いた当日の様子

@jazzforkids2024

北九州の今後を担う大学生が作るクリスマスイベント第2弾 !? 小倉の街に進出！ サンタフェスティバル !!

サンタウォーク実行委員会 / 実行委員長 : 敷田 亜美

たくさんの親子が北九州の食文化を楽しんだ！

幼少期から北九州市の食文化にふれ、興味・関心を育むことほかを目的に2025年12月13日(土)、小倉城周辺で開催。
750名超が参加しました。事業主体は北九州市内の大学生約40名からなるサンタウォーク実行委員会です。
地元企業11社の協力を得て、ぬかだき、焼うどんなど、北九州の食の特産品を一口サイズで提供したほか、遊びながら学べる食育クイズも実施。食を通じて地域への愛着や誇りを感じてもらえるきっかけになりました。「助成いただけたからこそ、学生だけでは実現が難しかった事業を形にすることができました」とご寄付者への感謝の言葉が届いています。


一口サイズの特産品を提供した当日の様子

@santawalk2025

「自閉症（ASD）支援における意思決定支援の実際（事例検討編）」研修事業

北九州 ASD サポートコミュニティ / 代表 : 桑原 小百合

自閉症 (ASD) 児者の意思決定支援に特化した学びの機会

障害のある当事者の住みよい地域の実現に寄与し、北九州市の都市格向上に貢献することを目指して、市内ではほとんどない、自閉症 (ASD) 児者の意思決定支援に特化した学びの機会づくりを実現。2026 年 1 月 24 日 (土)にウェルとばたで開催。9:50～16:00の長時間研修に24名が参加しました。
専門家による講義とグループディスカッションで自閉症 (ASD) 支援に必要な配慮のしかたや工夫を具体的に学び、「市内ではこれまでになかった研修」と満足度が高い研修でした。
「助成のおかげで新しい取り組みに挑戦できました」と、ご寄付者への感謝の声が届いています。



研修当日グループディスカッションの様子

@kitakyushu_asd

デンマークにおける障害者のためのアートスクール「Bifrost」作品展および福祉マルシェの開催

WinC 構想運営委員会 / 代表 : 小野 瑠夏

「生（き）のままの芸術」を楽しみ、「ともに生きる」を育む

デンマークにある障害者ための美術学校『Bifrost（ビフロスト）』所属アーティストの作品展示、制作風景のドキュメンタリー映画上映、Bifrostの現役教員とオンラインでつないだトークイベント、アートワークショップや市内就労支援事業所商品のマルシェなどを大學堂・門司画廊 MoGA (門司港) にて、2026 年 3 月の土日月曜日で計 14 日開催。福岡市内、東京からも来場。多様な表現を可視化し、鑑賞にとどまらず「ともに生きる」感性を育む実践として大きな意義が感じられた事業でした。「文化芸術を通じた社会的な取り組みを展開できたことに深く感謝しています」と、ご寄付者への感謝が届いています。



開催告知フライヤー

事業主体：WinC 構想運営員会のホームページ
https://winc.apa-apa.net/

助成実績の推移

	第１回 (H24)	第２回 (H25)	第３回 (H26)	第４回 (H27)	第５回 (H28)	第６回 (H29)	第７回 (H30)	第８回 (R1)	第９回 (R2)	第10回 (R3)
応募件数	10	14	10	19	16	10	16	9	7	4
助成件数	4	6	7	7	9	9	9	8	5	4
助成金額（千円）	1,349	1,900	1,300	1,500	1,500	1,500	2,000	2,000	1,500	1,000

第11回 (R4)	第12回 (R5)	第13回 (R6)	第14回 (R7)	合　計
12	11	16	20	176
6	7	7	4	92
2,178	2,763	2,508	1,259	24,257

03 広　報

［1000人の夢寄金］事業の趣旨及び寄付状況等をホームページ、facebook、メール配信（メールニュース）でお知らせしています。

夢寄金 ホームページ URL
https://www.kpec.or.jp/yume

夢寄金 facebook URL
http://www.facebook.com/kpecyume

※ 1000人夢寄金のメール配信によるお知らせをご希望の方は、お手数ですが件名に「メール配信希望、お名前」を記入のうえ、yume@kpec.or.jp へメールをお願いします。

04 助成先について

詳細は、1000人の夢寄金ホームページの
「助成先アーカイブ」をご覧ください

https://www.kpec.or.jp/yume/support





第13回　令和6年10月1日～令和7年9月30日　【7件】　250万円8,000円

- ■ 第２回　陸奥Ａ子&地元マンガ家の「デジタルマンガ・イラストくらぶ」
  株式会社 COLT / 代表取締役 : 大野 光司
- ■ キャリア教育の新しい実践 ～生きづらさを抱える子ども・若者たちのエンパワメント～
  一般社団法人キャリアサポートクラブ / 理事長 : 樋口 陽子
- ■ 北九州にゆかりのある曲にあわせた舞踊や音頭を知ってもらおう
  聖幻会 / 代表 : 内村 典子
- ■ 子どもたちにアートを！ 晴ればれアートフェスタ
  北九 hanako / 代表 : 福永 ちさ
- ■ 地球のステージ　北九州公演
  地球のステージ チーム九州 / 代表 : 服部 祐充子
- ■ 小学校アウトリーチ公演 みらいちゃんスピンオフ作品　音楽劇「ミクちゃん先生と３人のゆかいな音楽家」
  北九州ミュージックシアター・みらい / 代表理事 : 森岡 健一
- ■ 「遊ぶ楽校やた」フリースクール事業 ～ 児童・生徒の学校以外の学び舎づくり ～
  学ぶ楽校 やた / 楽長 : 寺田 美貴

KPEC 公益財団法人北九州活性化協議会

〒802-0082 北九州市小倉北区古船場町1-35 北九州市立商工貿易会館6F
TEL 093-541-3122 / FAX 093-541-0636
E-Mail:yume@kpec.or.jp

詳細はホームページでもご覧いただけます
http://www.kpec.or.jp/yume

kpecyume

1000人の夢寄金　検索

［発行］1000人の夢寄金事務局 / 公益財団法人 北九州活性化協議会　〒802-0082 北九州市小倉北区古船場町1-35 北九州市立商工貿易会館6F　お問合せ先 TEL 093-541-3122 / FAX 093-541-0636

別紙 4

定款(理事の職務及び権限)：第32条第4項に基づく執行役員の職務執行の状況報告。

令和７年度　(公財)北九州活性化協議会　執行役員会議　開催記録

2025 年度		執行役員会議 開催実績　出席〇、欠席 ×				
	開催日	時間	髙城 会長	田園 理事長	高田 副理事長	川原 専務理事
4 月度	４月２８日	メール開催	〇	〇	〇	〇
5 月度	５月２８日	メール開催	〇	〇	○	〇
6 月度	７月　２日	メール開催	〇	〇	〇	〇
7 月度	７月３１日	メール開催	〇	〇	〇	〇
8 月度	８月２６日	メール開催 (依頼事項有)	〇	〇	〇	〇
9 月度	10 月　１日	メール開催	〇	〇	〇	〇
10 月度	10 月 30 日	メール開催	〇	〇	〇	〇
11 月度	12 月　２日	メール開催	〇	〇	〇	〇
12 月度	12 月 24 日	メール開催	〇	〇	〇	〇
1 月度	１月２０日	メール開催	〇	〇	〇	〇
2 月度	２月２７日	メール開催	〇	〇	〇	〇
3 月度	３月２６日	メール開催	〇	〇	〇	〇

事業報告の附属明細書

該当するものはありません。